

レベル	件数		説明
	21 年度	22 年度	
レベル 0	5,361	3,420	○事故が起こりそうな環境に前もって気づいた事例 ○実施される前に気づいた事例 (22 年度における主な事例) ・指示の点滴とは違う薬剤が準備されているのを、実施前の確認で気づいた。 ・調剤量が間違っていることに、患者配薬前に気がつく。
レベル I	1,661	1,400	○実害がなかった事例 (22 年度における主な事例) ・抗生剤の投与を忘れ、遅れて実施した。 ・歩行運動のリハビリ中転倒した。
レベル II	712	702	○処置や治療を行わなかった事例 ○観察の強化、バイタルサイン*の軽度変化、確認のための検査の必要性が生じた (22 年度における主な事例) ・胸部レントゲン撮影指示のところ誤って腹部を撮影した。 ・術中のガーゼカウントが一致せず、閉腹前にレントゲン写真で発見した。
レベル IIIa	240	181	○簡単な治療や処置を要した事例（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与、カテーテルの自己抜去等） (22 年度における主な事例) ・挿管チューブを自己抜去したため、再挿入した。 ・清拭タオルが患者の皮膚に触れており、II 度熱傷を生じた。
レベル IIIb	7	9	○濃厚な処置や治療を要した事例（バイタルサイン*の高度変化、人工呼吸器の装着、入院日数の延長、外来患者の入院、手術等） (22 年度における事例) ・ベッド上でレントゲン撮影した際、点滴ルートが断裂し血圧下降し不整脈が生じた。 ・点滴棒を支えにして歩行中に転倒し、大腿骨を骨折したため、骨接合術を行った。 ・夜間病室で転倒し大腿骨を骨折したため、骨接合術を行った。 ・ベッドから転落し、手術創が離開したため、縫合手術を行った。 ・頸椎手術後、呼吸困難が出現したため、気管切開し、手術部の固定方法を変更した。 ・心嚢穿刺*時、穿刺針が心室を穿孔したため、開胸手術で穿孔部を閉鎖した。 ・歩行時バランスを崩し転倒し、大腿骨を骨折したため、骨接合術を行った。 ・ベッドから転落し、第一指を骨折したため、骨折部の固定術を行った。 ・術後、小腸が一部穿孔していることが分かり、穿孔部を縫合した。 (主な再発防止の取り組み) ・患者状態に合わせた方法で、レントゲン検査介助を行う。 ・歩行時の補助具として点滴棒を使用しない。 ・転倒リスクが高い患者の場合、睡眠薬は看護師が管理する。 ・腹腔鏡手術のリスクを院内で共有する。
レベル IV	0	0	○障害が残った事例
レベル V	0	0	○死因となった事例
その他	37	12	○対象が患者以外のもの、レベル判定不可能なもの等 (22 年度における事例) ・患者情報送信時、FAX 番号を間違えた。
総数	8,018	5,724	

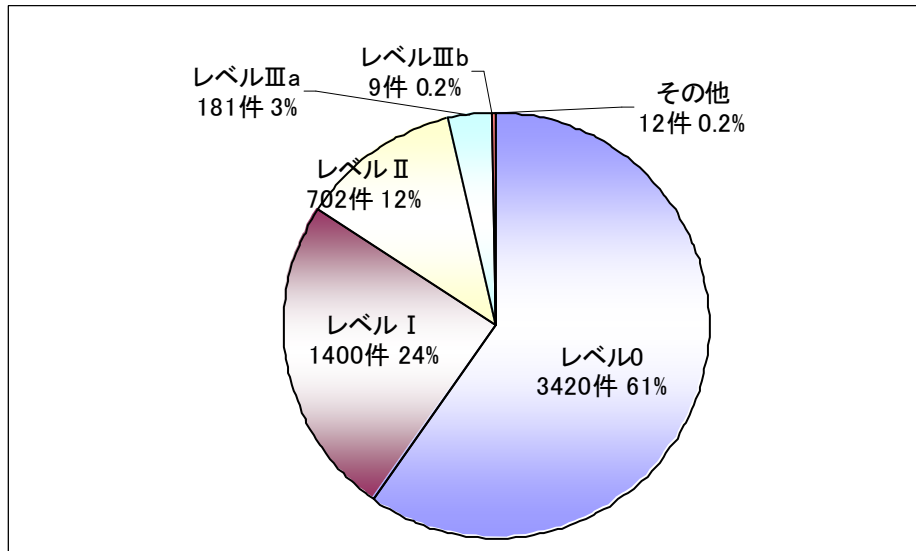
*バイタルサイン（生命徴候）：脈拍、呼吸、体温、血圧などのこと

*心嚢穿刺：心臓を包む膜の中に溜まった血液などを取り除く処置のこと

平成 22 年度に発生した医療事故等のレベル別及び種類別割合（市立札幌病院）

(1) レベル別割合

【図 1】



(2) 医療事故等の種類別割合

【図 2】

